



私たちの "おしん"

NHK連続テレビ小説「おしん」の原作・脚本を手掛けられ、4月に亡くなられた脚本家の橋田寿賀子さんを追悼する記事が、先月の山形新聞と読売新聞に掲載されておりました。

いずれも、橋田さんと長年お付き合いのあった上山温泉「古窯」の創業女将・佐藤幸子さんの寄稿された追悼文（山新）と思い出話を記者がまとめたもの（読売）でした。

私たち世代はTVドラマを直に鑑賞しましたので、「おしん」はなじみのストーリーなのですが、山形の寒村に生まれたヒロインの"おしん"が、明治から昭和までの80余年の激動の時代を懸命に生きる生涯を描いたもので、橋田先生と親交の深い幸子女将さんにはことのほか感銘深い思い出となっております。

さて、おしん少女時代の撮影は、山形県中山町岩谷地区で行われました。ここで出演者の控室や囲炉裏のセットのモデルとなった築150年の農家の家が、地元有志によって「おしんの生家」として保存されていましたが、2012年（平成24年）冬に雪の重さで倒壊、その後鶴岡市の庄内映画村オープンセットに移築されたそうです。

ところで私と主人とも中山町生まれですが、近年は特に山形市・寒河江市、そして天童市に挟まれて埋没し、閉塞感が募っております。何とか郷里の振興策はないのか…、仲間の方々と頭を捻っておりますところ、「おしんの生家」の再建プランなどが浮かんでおります。

そんな折、中山町岩谷の"おしんの生家"ロケ当日、私の実父が幸運にも町の公式ボランティアでカメラのシャッターを切っていたという記憶をもとに、実家の弟に頼み、当時の資料写真を探してもらいました。奇跡的にも、おしん少女役の小林綾子、青春期から中年期の田中裕子、そして晩年を演じた乙羽信子の女優さんが一緒に揃う撮影日はこの一日だけだったようで、懸命にシャッターを切った私の父のスナップ写真集に残っております。

以下は、幸子女将さんを通して橋田先生に父の写真を送った時の手紙の一節です。

---（前略）中山町は「おしん」の生家の舞台となった町という日本中のみんなが知っているということ、さらに、アジア諸国をはじめ世界90ヶ国で放映され、世界中の人々から愛されていることをあらためて気づかせていただきました。先日のこと、亡き父が撮影



中山町・高橋源吾 撮影

した「おしん岩谷ロケ隊」の写真が押し入れから見つかりました。私は「これはご縁だ!」と興奮してしまいました。早速、古窯の幸子女将さんにお話したところ、橋田先生にお見せしたら…という話になりました。若い人たちは「おしん」を知らない世代なのですが、彼らに今日の日本の繁栄を築いた先輩世代のご苦労や辛苦の上に今日があり、我が町にもその原点があることに気付いてもらうためにも、ドラマのロケ時の写真を見てもらい、あらためて"おしん物語"の普遍的な価値にふれて欲しいと願っております。それが亡き父の願いでもあったように思っている次第です。現在はコロナ禍で、先が見通せない不安な社会状況ではありますが、一昔前の町内で撮影された当時に触れていただき、ともにありたい未来を語りあえたらと願っております。（後略）---